ほっと

No. 51
2017 Summer

含松山
臨南寺

特集

道元禅師ものがたり ㉔

――真の後継者を育てるために
永平寺を出家者の修行道場にしたい

道元禅師が鎌倉から永平寺に帰って来られたのが宝治二年（一二四八）三月です。半年に及ぶ鎌倉逗留の遅れを取り戻そうとするかのように、道元禅師の活動ぶりは熱を帯びていきます。その一つが「清規」づくりでした。

「永平清規」にまとめる

清規というのは、現在で言うマニュアルです。

食事を作る人の心得である「典座教訓」は有名ですが、そのほかに五年以上の先輩に対する礼儀作法、僧堂での坐禅修行の心得と作法、食事をいただく時の作法、永平寺に住む修行僧たちが人間関係にとらわれずに修行する心構えや方法、禅寺の経営や管理そして法要の執り行い方まで細かく規定されています。これら六編の清規を「永平清規」としてまとめなおしました。

道元禅師の仏教は、一言でいうと「生活禅」です。僧堂で坐禅することだけが、禅ではないと考えていました。寝ることも、起きることも、食事することも、作業することも、便所や風呂を使うことも、禅寺での生活すべてが大切な人生修行の場と考えられていたのです。

「一箇半箇の接得」とは

さらに、道元禅師が執筆された「正法眼蔵　洗面」には、歯の磨き方や楊枝の使い方、顔の洗い方まで指示し、それはお釈迦様の時代から伝えられた礼儀作法であると紹介しています。永平寺を僧たちの修行の場として完成させようという道元禅師の意気込みが伝わってきます。

如浄禅師の「一箇半箇を接得せよ」という遺言が、鎌倉生活で頭をもたげてきたようです。道元禅師は、広く在俗の信者を求めるよりも、たった一人でもいい、一人が無理なら半人でもいい、真の後継者を育てるべきだと思い定められたのではないでしょうか。そのため、永平寺の修行は出家した者だけが対象になりました。在家の信者は参加できませんでした。そこにも、「お釈迦様から伝わる正伝の仏法を次の世に伝える真の後継者を育てたい」という道元禅師の命を賭けた願いが感じられます。

大蔵経の奉納

鎌倉から帰られた翌年、建長元年（一二四九）一月一日、道元禅師は永平寺で羅漢供養法会を営まれます。修行によって悟りに至った羅漢たちは、お釈迦様の弟子でもありました。道元禅師はお釈迦様に直接つながる聖者として、十六羅漢の像をまつり供養しました。その時、不思議なことに羅漢の像が光明に輝き、光を放ったと記されています。

同じ年の十二月八日には、三十五歳のお釈迦様が明けの明星を見て悟りを開いた日を記念する「成道会」を修行されています。

建長二年（一二五〇）には、後援者の波多野義重公から「大蔵経を献納したい」という書状が永平寺に届き、二月下旬に奉納されました。大蔵経は仏教の経典や注釈書をまとめたもので、一切経とも呼ばれ、多くの功徳をもたらすと信じられています。道元禅師は「永平寺に多くの幸せがもたらされるであろう」と喜ばれたと伝えられています。

盆提灯　ありとしもなき　風に揺れ　久保田万太郎

八月はお盆、九月はお彼岸です

臨南寺のお盆行持は、お墓経（八月十日、十二日）から始まり、また十二日は、「弁財天万灯会」も催します。ご先祖様や亡き人へのご供養とともに皆様の願い事を書き入れて、弁天様に献灯致しましょう。十六日には、盂蘭盆会施食会を修行します。各家にゆかりの精霊をご回向させていただきますので、ご家族そろってお参りください。

九月はお彼岸です。九月二十六日は本堂にて彼岸会施食会の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝する大切な期間です。ご先祖様をしのび、ご家族の幸せに感謝いたしましょう。ぜひ、ご家族そろってお参りください。

ご都合が悪い方は、いずれの行持も不参にてお受けしますので、お問い合わせください。

8月12日、本堂前は幻想的な灯りに包まれます。

臨南寺 百景

十一面観世音菩薩様

昨年の六月九日に完成した「圓通閣」におまつりされている菩薩様です。

大澤住職の実家は、福島県会津美里町にある普門山弘安寺です。弘安寺のご本尊が十一面観世音菩薩様。鎌倉時代の金銅仏で国の重要文化財に指定されています。「中田観音」と呼ばれ、安産とともに長わずらいなしに往生できるピンピンコロリの霊験で人々の信仰を集めています。文永十一年（一二七四年）、長者江川常俊が娘の菩提を弔うため姿に似せたと伝えられています。

その十一面観音様のお姿を模した木彫像が、圓通閣に安置されている十一面観世音菩薩様です。美しく気品にあふれたお姿は娘さんの面影を忍ばせます。

会津が生んだ世界的な医聖・野口英世の母親シカさんも、弘安寺の十一面観音様を信仰していました。毎月一回、一晩観音堂におこもりする月詣りを欠かさず、英世の無事を祈願し続けたことでも有名です。

圓通閣の十一面観世音菩薩様

大本山總持寺での修行の経験を忘れずに

六月よりお勤めさせていただいております、静岡県焼津市出身の武藤英仙と申します。大学を卒業後、横浜市にある大本山總持寺で四年間修行させていただきました。実家がお寺でありながら無知であった私にとっての修行生活は、言葉では言い尽くせないほどの貴重な経験となりました。

この四年間で共に修行に励んだ仲間や指導してくださった諸老師、お檀家様や参拝者の方々、多くの人に出会うことができました。人と関わっていくことの大切さや難しさを知り、なにより出会いというものの尊さを知りました。一人ひとりそれぞれに自分なりの考え方、広く言えば生き方があり、それまでの自分の考え方も少しずつ変化していきました。僧侶としてだけでなく、人としての成長を感じることができました。

武藤英仙

人は見た目では判断できない、とよく言います。頭を剃り着物を着ていれば僧侶のように見えますが、格好だけではなく、言動や心で通じ合えるような僧侶、人間になれるよう、修行での経験を忘れずにこれからも日々精進いたします。

このたびご縁をいただき臨南寺にまいりました。大阪の地でも数多くのご縁や出会いとともに様々な経験を積み重ねられるよう願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

臨南寺行持予定（八～九月）

お墓経（はかぎょう）　＊八月十日　午前十時～正午　受付は午前十一時半まで
＊八月十二日　午後五時～九時　受付は午後八時半まで
ご希望の方は、塔婆の準備がございますので、事前にご連絡ください。

弁財天万灯会（べんざいてんまんとうえ）**（本堂）**
＊八月十二日　午後六時～九時（献灯時間）
ご祈祷は一回目　午後六時半～　二回目　午後八時～　受付は八時まで
あらゆる願いを叶えてくださる弁財天様に、願いを託して献灯をし、福を授かりましょう。お盆の迎え火としてもご献灯いただけます。

盂蘭盆会施食会（うらぼんえせじきえ）**（本堂）**＊八月十六日　午前九時～午後一時　受付は十二時半まで
お盆供養の法要を行います。各家のご先祖様と、ご縁の深い精霊のご供養をいたしましょう。どなたでもご参加いただけます。

お墓経（はかぎょう）　＊九月二十二日　午前十時～午後三時　受付は午後二時半まで
＊九月二十三日　午前十時～午後三時　受付は午後二時半まで
ご希望の方は、塔婆の準備がございますので、事前にご連絡ください。

彼岸会施食会（ひがんえせじきえ）**（本堂）**＊九月二十六日　午後一時～三時　受付は二時半まで
お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝し、わが身を省みる大事な期間です。ご先祖様をしのび、今あることに感謝いたしましょう。どなたでもご参加いただけます。

御本尊様修復のお知らせ

今年七月中旬から年末まで、本堂のご本尊様を修復させていただきます。期間中は、お釈迦様を中央に道元禅師と瑩山禅師が両脇にお座りになった「一仏両祖」のお軸をお掛けしますので、お変わりなくお参りください。

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日（一月、八月は無し）午前六時半～　本堂にて

写経会

毎月二十日（八月は無し）午前十時～午後三時　写経料・千円

＊いずれも急きょ中止になる場合がありますので、前日に確認してください。

春のマトリ合同法要

『末期の目を持って生きていたい』

初夏の爽やかな空気に包まれた五月十四日(日)午後一時から、がっしょう園マトリの合同法要が営まれました。法話は山形県新庄市の福田院ご住職の長峰広道老師。昨年春に引き続き、心に沁みるお話でした。

「あっという間の一年間でした。すべての人に平等に与えられる時間と命をどう使うかで、その人の一生が決まってしまいます」「NHKで川端康成さんが『末期の目を持って生きていたい』と言われていました。この世の見納めかと思って見たならどう見えるか、家内をもっと大事にできるかもしれません」「先祖はどこから来ているでしょうか？　一番身近な父と母でも、五代さかのぼると六十四人の父母がいる。三十二人の父ちゃんと三十二人の母ちゃんがいて、皆さんはここに座っています。それらすべての命を私の中に持っていることを忘れてはなりません」

法話を聞いたあとはマトリに移り、読経の中ご焼香していただきました。

しみじみとした長峰広道老師のお話しでした

墓苑をご利用の皆様へ

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。
  ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、
  各自お持ち帰りください。

- トイレにはトイレットペーパー以外は流さないでください。
  ティッシュペーパーは水に溶けません。
  ウエットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。

お車でお越しの方へ

最徐行

昨年、当寺院の境内地で数件の人身事故が発生しました。境内では最徐行で通行してください。

今後改善される様子が見られなければ、車両の乗り入れを全面的に禁止いたします。

なお、境内地内での事故等につきましては、当寺院では一切の責任を負いません。

「ほ～っと」51号
平成29年7月
編集・発行：棲伽林（りょうがりん）「ほ～っと」編集室
〒546-0034　大阪市東住吉区長居公園1-32
0120-667-638
TEL 06-6698-1001
FAX 06-6697-3330
Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.rinnanji.com

編集後記

人工知能の発達ぶりには驚かされます。将棋も囲碁も世界一の名人が完敗するありさま。人間の牙城と思われた領域でも、もはや人間はコンピューターに太刀打ちできないのです。そこで夢見るのですが、この力を戦うためではなく、和平のために活用できる日が来ないか、と。(M)